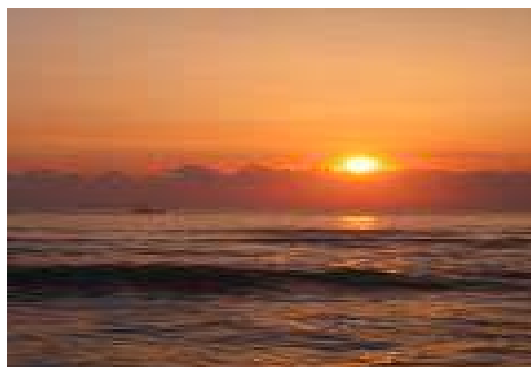


環境活動レポート

環境活動レポート

【活動期間 2012/11～2013/10】



2013年12月9日

株式会社 久力製作所

代表取締役 久力 章喜

環境方針

【基本理念】

株式会社久力製作所は、住宅部品(ドアロック、ドア部品、ユニットバス部品、トイレアクセサリーなど)の製造において、安全で快適な暮らしを確保する為の一員として事業活動を行うと共に、皆の財産である霞ヶ浦(北浦)の保全と地域社会とのコミュニケーションを推進し、環境保全活動を積極的に推進してまいります。

【基本方針】

1. 環境関連の法規制等を遵守する。
2. 廃棄物の排出量及び最終処分量の抑制とリサイクル化を推進する。
3. 無駄なエネルギー利用は排除し、業務効率の向上により、省エネルギーに努める。
4. 金属屑の積極的な省資源活動に取り組む。
5. エコアクション21の活動を通じ、従業員の環境保全意識を高める。
6. 環境方針は、環境掲示板への掲示と説明で全従業員に伝達し、理解させる。

2010年 4月 23日
株式会社 久力製作所
代表取締役 久力 章喜

会社／事業活動の概要

1. 会社名／代表者名

株式会社 久力製作所
代表取締役 久力章喜

2. 所在地

本社工場 茨城県行方市小貫1681
東京支店 東京都墨田区錦糸4-6-9小川ビル2F

3. 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 栃本修一
連絡先 TEL : 0291-35-2636 FAX : 0291-35-2683

4. 事業概要

住宅部品（ドアロック, ドア部品, ユニットバス部品, トイレアクセサリなど）の設計、
開発、製造及び販売

5. 事業規模

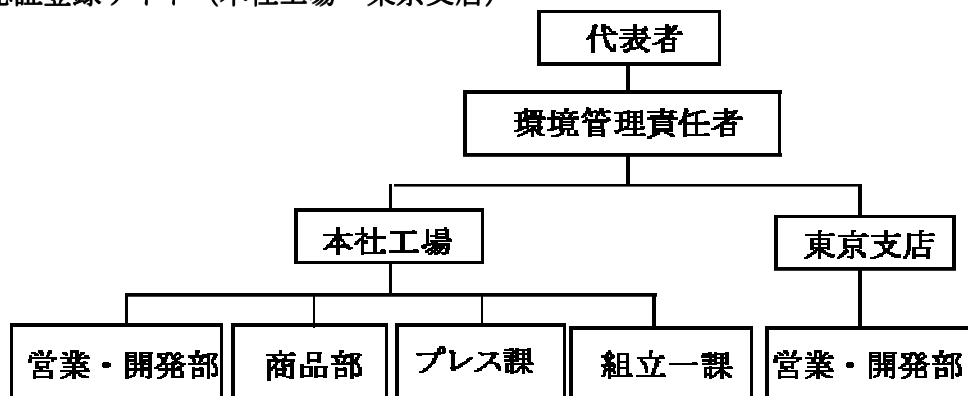
項目	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
生産高	t	3,056	3,842	3,848	3,848
売上高	百万円	1,728	1,864	2,104	2,302
従業員※	人	68	69	70	76
床面積合計	m ²	1,500	1,500	1,500	1,500

※従業員の内2名は東京支店に所属

認証登録の範囲

1. 事業所

認証登録サイト（本社工場・東京支店）



2. 事業内容

住宅部品（ドアロック, ドア部品, ユニットバス部品, トイレアクセサリなど）の設計、開発、製造及び販売、全ての事業活動に適用している。

環境目標と環境活動計画

No.	環境目標項目	単位	認証サト	実績 (値)	目標 (値)		
				2010 年度 (基準年)	2011 年度	2012 年度	2013 年度
1	電力使用量の削減 【2010 年度実績値】	kg-CO2	本社工場 東京支店	44,991 2,001	1 %減	2 %減	3 %減
2	化石燃料使用量の削減 【2010 年度実績値】	kg-CO2	本社工場 東京支店	37,574 449	1 %減	2 %減	3 %減
3	水使用量の削減 【2010 年度実績比】	m ³ /人	本社工場	0.55	1 %減	2 %減	3 %減
4	コピー用紙使用量の削減 【2010 年度実績値】	枚	本社工場 東京支店	390,000 2,000	1 %減	2 %減	3 %減
5	グリーン購入の推進【事務 用品購入金額に対するグ リーン品の比率】	%	本社工場 東京支店	71.3 70.0	75%	80%	85%
6	金属屑の削減 【2010 年度実績値】	t	本社工場	49.7	1 %減	2 %減	3 %減
7	廃棄物排出量の削減 【2012 年度実績値】	t	本社工場	16.0	—	—	1 %減
8	プレス生産性の向上 【2012 年度実績値】	個/作業 h	本社工場	***	—	—	1 %増

環境目標の実施

1. 環境目標の達成度

○ ≥ 100%...目標達成 100 ≥ △ 95%...やや未達 95% < ×...未達

No.	2013年度環境目標	単位	認証サイト	目標値	実績 (2012年11月～ 2013年10月)	目標達成率	評価
1	電力使用量の削減 【2010年実績比3%減】	kg-CO ₂	本社工場	43,641	※53,351	82%	×
			東京支店	1,941	※1,493	106%	○
2	化石燃料使用量の削減 【2010年実績比3%減】	kg-CO ₂	本社工場	36,446	29,041	125%	○
			東京支店	435	269	161%	○
3	水の使用量削減 【2010年実績比3%減】	m ³ /人	本社工場	0.53	0.52	101%	○
4	コピー用紙使用量の削減 【2010年実績比3%減】	枚	本社工場	378,300	367,000	103%	○
			東京支店	1,940	1,500	129%	○
5	グリーン購入の推進【事務用品 購入金額に対するグリーン品の 比率】	%	本社工場	85	100	118%	○
			東京支店	85	100	118%	○
6	金属屑の削減 【2010年実績比3%減】	t	本社工場	48.2	48.0	101%	○
7	廃棄物排出量の削減 【2012年実績比1%減】	t	本社工場	15.8	15.6	102%	○
8	プレス生産性の向上 【2012年実績比1%増】	個/作業h	本社工場	422	406	96%	△

※1 電力使用量の削減・・・売上高単位実績/百万円比で評価した場合、2010年度実績26.04に対して2013年度は23.18であった。実際は11%削減されており結果、目標達成した。

環境活動の取り組み結果とその評価

No.	環境目標項目	今年度の実績に対する評価と次年度の取り組み
1	電力使用量の削減	節電及びLEDへの移行や工場内現場、事務所における作業スケジュールを調整して全社的に残業時間の削減を行ったが目標未達成との判定になった。目標値に対する電力使用量の増加を売上額増加の要素を加味しての評価方法を見直した場合に目標達成となる為、次年度から切替えることとする。
2	化石燃料使用量の削減	無駄な冷暖房の抑制や公共機関利用での移動など、効率的に移動を図った結果、目標を達成した。
3	水の使用量削減	節水コマ設置と節水活動が全社的に継続して実施され、効果的に削減された。

環境活動レポート

4	コピー用紙使用量の削減	裏紙の利用促進の意識改革は定着した。次年度も節約を徹底して実施する。
5	グリーン品購入の推進	積極的にカタログ等でグリーン品を調達した。次年度はアイテムを増加するなど、継続して購入を推進する。
6	金属屑の削減	プレス加工原材料のコスト削減活動と品質向上による不良品発生量の減少により目標を達成した。次年度も省資源活動に取り組む。
7	廃棄物排出量の削減	仕入外注先不良や工程内不良、不良在庫の削減により目標を達成した。
8	プレス生産性の向上	プレス加工の効率化により生産性はアップしてきたが、目標未達成となった。次年度は日々実績を把握しながら意識して取り組む。

次年度の環境目標

No.	環境目標項目	単位	認証サイト	実績 (値)	目標 (値)		
				2013 年度 (基準年)	2014 年度 1%減	2015 年度 2%減	2016 年度 3%減
1	電力使用量の削減 【2013 年度売上高単位 実績値/百万円比】	kg-CO2/ 百万円	本社工場 東京支店	23.18 0.649	22.94 0.642	22.71 0.636	22.48 0.629
2	化石燃料使用量の削減 【2013 年度売上高単位 実績値/百万円比】	kg-CO2/ 百万円	本社工場 東京支店	12.62 0.117	12.49 0.116	12.36 0.115	12.24 0.113
3	水使用量の削減 【2013 年度実績比】	m ³ /人	本社工場	0.520	0.515	0.510	0.504
4	コピー用紙使用量の削減 【2013 年度実績値】	枚	本社工場 東京支店	367,000 1,500	343,330 1,485	359,660 1,470	355,990 1,455
5	グリーン購入の推進【事務用品購入金額に対する グリーン品の比率】	%	本社工場 東京支店	75%	80%	85%	90%
6	金属屑の削減 【2013 年度実績値】	t	本社工場	48.00	47.54	47.04	46.56
7	廃棄物排出量の削減 【2013 年度実績値】	t	本社工場	15.60	15.44	15.29	15.13
8	プレス生産性の向上 【2013 年度プレスパンチ 数実績値/作業 h 比】	個/ 作業 h	本社工場	410	414	418	394

環境関連法規への違反・訴訟等の有無

1. 下記の主な法規制を含む全ての適用する法規制の評価において遵守していることを確認した。

法規制	チェック結果	状況
廃棄物処理法、茨城県及び行方市条例	○	問題なし
PRTR 法	○	問題なし
RoHS 法	○	問題なし
労働安全衛生法	○	問題なし
消防法及び行方市条例	○	問題なし
騒音規制法及び茨城県条例	○	問題なし
振動規制法及び茨城県条例	○	問題なし
その他の法規制	○	問題なし

2. 違反・訴訟など

- ・環境関連法規について過去7年間、関係機関等からの指摘は無く、又訴訟などありません。
- ・また、内部の遵守評価においても法令違反はありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

- ・エコアクション21活動が維持されています。新たに「廃棄物排出量の削減」や「プレス生産性の向上」の2項目を目標設定し、意欲的に活動に取り組まれています。電力使用量削減が今後課題と判断しますが、他環境目標については数値的に達成され良い状態であると言えます。
次年度も目標達成に向けて活動を推進して下さい。
- ・見直しについては環境方針、環境目標、EMSの仕組みなど適切な設定であると考えますので変更等の指示はありません。